

大岡川

大岡川プロムナード事業

に上大岡のつたところで港南台を下つてきた日野川と合流して大岡川となつて南区をぬけ中区に接近して日枝神社の手前で堀割川と中村川を分流し一路港湾をめざして河口をひらく。

弘明寺の創建

大岡川のもたらした利益の第一は灌漑用水である。兩岸の蒔田地区にはつい近くまで広大な田園がひらけていた。そこにかつての條里制のあとをみるのも首肯できる。理由はいろいろあるがまず、そこに残る「一の坪」「二の坪」などの地名がある。蒔田地区にそれをさぐると古い地図などで蒔田橋の南側にそれがみつかる。同様に廻坪、榎木坪などもその類であり、用水池の所在をしめすものに池の上、池の下、池の外などがある。

つぎに「日本書紀」の安閑天皇時代の項にみる国造争奪の話などもそれに関係する。

そのころには大和政権の勢力が関東におよびはじめていた。争つたのは使主と小杵の同族で、使主の国造の地位を小杵がおびやかした。使主はそのことを朝廷に訴え出た。その結果使主の地位は確保された。かれは大いに喜んで自分の勢力圏であった倉庫その他三ヶ所の地を屯倉として朝廷に献上した。その倉庫の地が蒔田周辺に比定されるのである。屯倉とは朝廷の直営地である。そこには中央から名のある役人が派遣されてそれを管理統治した。かれは新しい開発と土木の技術をもって屯倉に條里制をしき、新しく大陸から伝来した仏教文化をもたらし弘明寺の創建をすすめた。條里制とは朝廷直営地の管理の手段であった。中に仏教寺院をおいて統治にあたつたのである。

大岡川の舟運

大岡川の利用はまた交通路としても重要であった。

弘明寺は創建以来、代々権勢者の外護をうけ、鎌倉時代には將軍頼朝が同寺を源家の祈願所として厚遇し、小田原北條氏弘明寺前市を制札を立てて保護した。市には遠く房総三浦方面から海産物が運ばれ、それは海運によつてもたらされた。海運の状態の想像をたすけるものは弘誓院所蔵の卷子がある。宝曆十二年(一七六二)のものだというから、時代は下るけれどもその中に「横浜八景」と題した一詩がありその一景「蒔田夜雨」がそれにあたる。

「川流泊艦泊船裡」

この一節によると、蒔田の船着場は大岡川河口あたりの印象をうけるが、それがはつきり今のどの辺であったかはわからない。そのころすでに入海の扇状地には、大岡川の吐き出す土砂を基底に吉田新田の造成が成つていて、河口は蒔田あたりがその形をつつていた。そして川筋も広くて、船は船着場まで入つてきた。



富士見川人道橋でおどける子供達



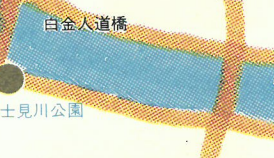
地元で植えた樹木を残して整備した太田橋付近



木田橋際



黄金町駅



白金人道橋

富士見川公園



地下鉄阪東橋駅

大通り公園



富士見川公園と一体となった豊かなひろがりを見せる富士見川人道橋付近



道慶地蔵と道慶橋



手摺とバラベツト



道慶地蔵

道慶橋



連担する材木店と大型車の停車を考慮した段差の小さい歩道(一本橋下流・右岸)



階段を登りつめると常照寺



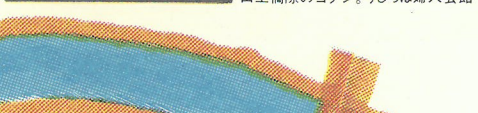
常照寺



清水ヶ丘教会



山王橋下流の右岸



山王橋際のコブシ。うしろは婦人会館



山王橋 吉田新田の開拓者吉田勤兵衛が新田の守護神として東京の山王神社を勧請した日枝神社にちなむ山王橋



一本橋



山王橋

日枝神社

日枝小学校



寿警察署と工事中の段谷橋

地下鉄吉野町駅



満開の桜

南太田小学校

南太田公園



明治時代の大岡川風景(山王橋、日枝神社付近)

南太田駅

山王橋公園

市婦人会館



特徴ある二段歩道(井土ヶ谷橋付近・左岸)

市立横浜商業高等学校(Y校)



清水橋



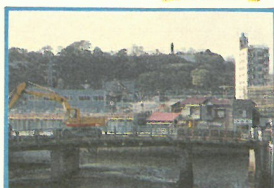
Y校前の歩道の状況



整備



植樹樹を利用したベンチ



蒔田公園

段谷橋

寿警察署

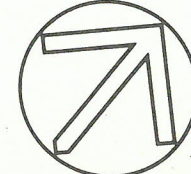
OHKA RIVER PROMENADE : the first riverside promenade scheme in Yokohama. It has been designed as the strategic planning backbone to strengthen the urban design framework of the old densely populated and built-up areas, recovering and saving the misused natural resources and historical assets of the district.

Ohka River PROMENADE

道慶橋

いまの道慶橋の側に渡船場があつてそのほとりに僧道慶という者が住んでた。かれは堂を建てて地蔵尊を信仰していたが、それを同所の信仰者三十余名の者に寄附して新しく堂宇を建造した。対岸の吉田新田は万治二年に完成したものであるが道慶は太田村から吉田新田に通じる小さな橋を架けた、それが今にその名をとどめる道慶橋である。

その地蔵堂をひきついでいるのが現在橋のもとにある道慶地蔵の小祠である。それに由来板がたてある。道慶というのは回國遍歴の遊行僧であつていわゆる高野聖の一人であつたと思われるが、かれらは地方遍歴の間いろいろな救民の事業を残した。そこで近世になって地方村落に定着したのである。大岡川の渡船場がどの辺であつたかは不明であるが、いずれも道慶橋の近くであつて堀の内村蒔田方面に渡していたのであろう。そのような不便を見かねて道慶は架橋を志し、信仰の同志をかたかつて、資金募集の托鉢をはじめたのであつたらう。



ングを採用しました。高木の周辺は、水の供給を考慮して、砂目地の多孔式レンガを、橋付近は、地下埋設物の横断を考慮し、再利用可能な小舗石を配置し、全体的に規則性をもったデザインとしました。

植栽

在来からの桜を残し、桜並木を復活させるため、ソメイヨシノを基調樹とし、7~7.5m間隔で植樹しました。また橋付近には小舗石の舗装でアクセントをつけると同時に、シンボルとなる木を橋ごとに覚えて植えることにより、特徴をつけています。低植栽は歩行者の乱横断防止の機能をもたせるとともに、季節感を演出し、年間を通じて楽しめるよう配慮しました。ベンチ付の植樹樹もあり、憩えるような配慮もしています。

手摺

川への転落防止の機能をもたせるため高さを歩道路面から1.2mとしま

基本断面図

した。材料は、耐久性にすぐれ重厚さのある鋼材を使用しました。デザインは日本の雰囲気格子を採用し、重厚さと同時に繊細な感じを持たせました。合わせて護岸上部のパラペットにもコンクリートで打増し、手摺の支柱直下にはくぼみを設けて、手摺と一体感を出しています。色は、鋼材の質感が生きたチャコールグレーとしました。

照明

路面での平均照度5ルクス、最低照度2ルクスを、幹線道路部で平均15ルクスを確保するよう計画しました。灯具の配置は、歩行者の妨げにならぬようにし、かつ車道へも光が届くよう高木の位置と並列に配置しています。高さは、一灯用で4.5m、2灯用で6mとしました。灯具のデザインは、ぼんぼりの様な形とし、桜並木と調和するよう日本の雰囲気を演出しています。灯具直下に暗部をつくらぬように工夫し、レンガと

接する部分にも台座を設け、なじみを良くしています。灯具の塗装も手摺と同色のチャコールグレーとしました。

その他

歩道上のその他の施設として、カーブミラーや既存の公衆便所、東京ガスの整流器等も、プロムナードと調

和させるため、手摺、照明灯と同色のチャコールグレーで塗装し、一体感を出すよう工夫しました。

交通規制

交通規制については、原則的に一方通行とする事により、歩道をより広く確保できるよう工夫しました。また駐車禁止と共に大型車の進入が禁止されています。

プロムナードの将来

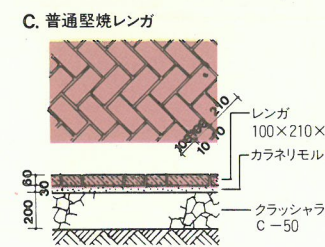
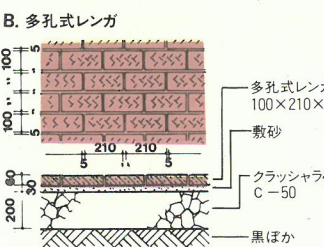
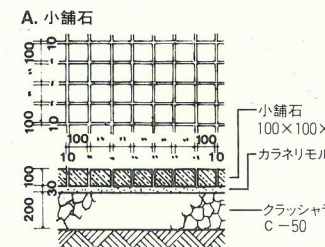
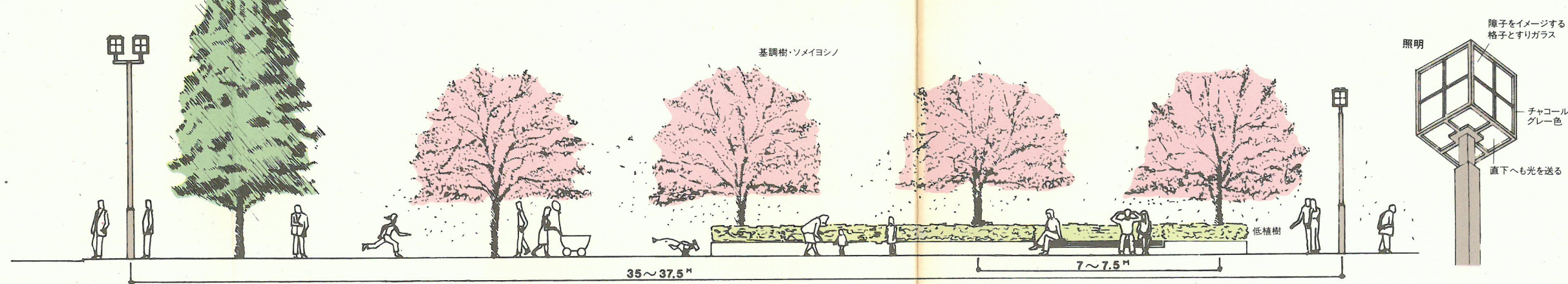
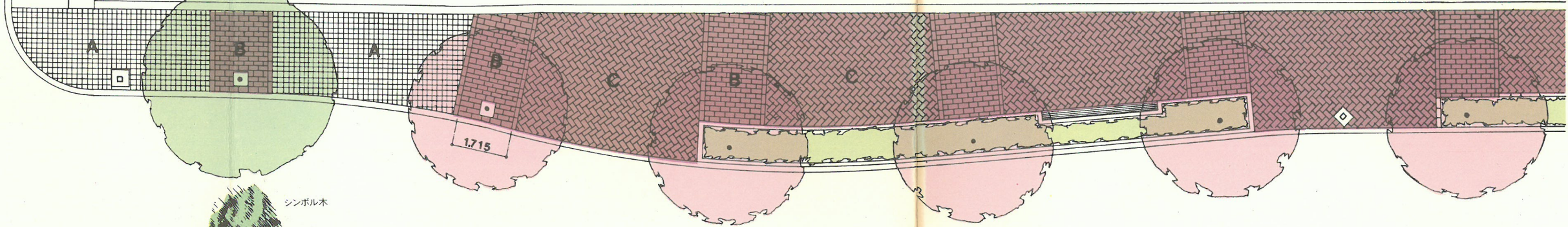
大岡川プロムナード完成後、河辺を散策する人や、木陰のベンチに腰かけて話をする人なども見受けられるようになり川辺の道も徐々に変わりつつあります。新しく植えられた桜並木も年とともに大きな木陰を提供してくれるようになるでしょう。そ

して、プロムナードの街路樹だけでなく沿道の家々や周辺公共施設の緑などが一体となることによって、高密度な市街地の中を通る緑の軸としての大岡川プロムナードがより鮮明に浮きあがってくるでしょう。大岡川は上流の分水路の完成によっ

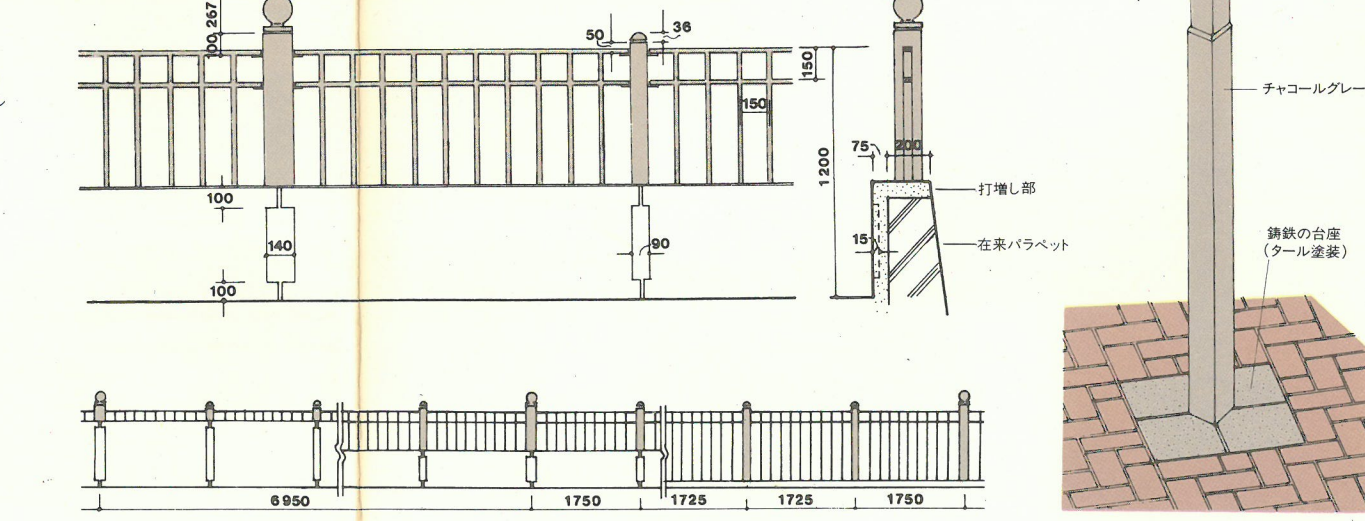
て水害に悩まされることもなくなってきました。川は洪水に代表される恐ろしい対象から、より地域の貴重な水辺空間へと変わりつつありますが、まだ川そのものに親しめるようになるにはいくつかの条件を整理しなければなりません。近年再び少しなりともきれいな川になりつつありますが、大岡川の水質は昔のような水遊びができた程には戻ってはいません。

今後も川の浄化には努めなければなりません。上流の方では下水道の整備とともに川の水量が少なくなっているのも将来的には問題となるでしょう。水質の改善と水量の確保が大岡川には求められています。ただその一方、野鳥の姿を見たり、海から上ってくる魚が釣れたり川に再び生物が戻ってきているのも確かです。今後はこれらの生物がより来

やすいように、河床のゴミを除いたり、魚の住みやすい河床にするなどの工夫をする必要があるでしょう。川にゴミを捨てたり、プロムナードを汚したりしないよう守り育てたいものです。今は、河沿いの道路が整備されただけの大岡川プロムナードですが、今後は住民の積極的参加による真の意味の河川プロムナードづくりが課題です。



手摺とパラペット



- ① 歩道は川側に設ける。
- ② 手摺の高さは歩道面より1.2mとし、歩道巾員の有効利用を図るため、パラペット上に設置する。
- ③ 植栽は車道側を原則とし、既存樹木は極力保存する。
- ④ 照明は植栽と同列とし、歩道両側を照らす。
- ⑤ 歩道車道境界にはガードレールは設けず、20cmの段差をつける。
- ⑥ 車道巾員は4~5.5mとする。
- ⑦ 勾配は民地側への片勾配を原則とし、パラペットの高さを低く抑える。
- ⑧ 歩道巾員は最少1.5mとし、樹木と手摺との間の有効は90cm以上とする。

選定された樹種の美しい季節

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
クス(弘明橋)	クロガネモチ(碓田橋)	タイサンボク(井土ヶ谷橋)	タブ(清水橋)	アオギリ(栄橋)							
ケヤキ...枝ぶり(鶴巻橋)		ケヤキ...新緑							ケヤキ...紅葉		
	コブシ...白い花(山王橋)							キンモクセイ...花、匂(鶴巻橋)			
	シダレヤナギ...新緑(太田橋)	ソメイヨシノ...花						イチヨウ...紅葉(大井橋)			
		カルミア...かれんな花						サザンカ...清楚な花			
								クチナシ...花・匂・蝶			

シンボル樹 基調樹 低植樹



清掃風景



地域の人々による盆踊り風景(栄橋付近・右岸) 提供:三橋武士氏



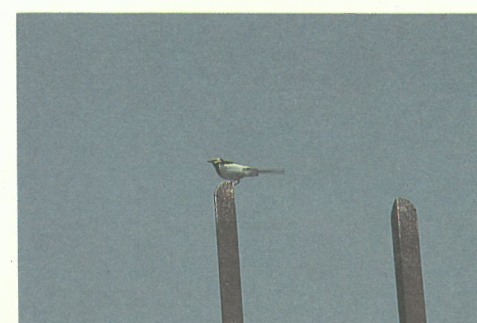
Y校ボート部練習風景(井土ヶ谷橋付近)



ジョギング風景(大井橋付近)



大岡川で釣れたボラ(井土ヶ谷橋付近)



大岡川へ飛んできた野鳥(提供:石井隆氏)

大岡川

田海山溪間の湧水をあつめて一筋となつた小流は、森林をくぐって水取沢の山裾をめぐって下り、二方四海山東麓の峰地区を源流とする左右手川と笹下地区で合して笹下川となる。さら

に上大岡のつたところで港南台を下つた日野川と合流して大岡川となつて南区をぬけ中区に接近して日枝神社の手前で堀割川と中村川を分流し一路港湾をめざして河口をひらく。

大岡川プロムナード事業

弘明寺の創建

大岡川のもたらした利益の第一は灌漑用水である。兩岸の蒔田地区にはつい近くまで広大な田園がひろがっていた。そこにかつての條里制のあとをみるのも首肯できる。理由はいろいろあるがまず、そこに残る「一の坪」「二の坪」などの地名がある。蒔田地区にそれをさると古い地図などで蒔田橋の南側にそれがみつかる。同様に廻坪、榎木坪などもその類であり、用水池の所在をしめすものに池の上、池の下、池の外などがある。

つぎに「日本書紀」の安閑天皇時代の項にみる国造争奪の話などもそれに関係する。

そのころには大和政権の勢力が関東におよびはじめていた。争つたのは使主と小杵の同族で、使主の国造の地位を小杵がおびやかした。使主はそのことを朝廷に訴え出た。その結果使主の地位は確保された。かれは大いに喜んで自分の勢力圏であった倉庫その他三ヶ所の地を屯倉として朝廷に献上した。その倉庫の地が蒔田周辺に比定されるのである。屯倉とは朝廷の直営地である。そこには中央から名のある役人が派遣されてそれを管理統治した。かれは新しい開発と土木の技術をもって屯倉に條里制をしき、新しく大陸から伝来した仏教文化をもたらし弘明寺の創建をすすめた。條里制とは朝廷直営地の管理の手段であった。中に仏教寺院をおいて統治にあたったのである。



大岡川の舟運

大岡川の利用はまた交通路としても重要であった。

弘明寺は創建以来、代々権勢者の外護をうけ、鎌倉時代には將軍頼朝が同寺を源家の祈願所として厚遇し、小田原北條氏弘明寺門前市を制札を立てて保護した。市には遠く房総三浦方面から海産物が運ばれ、それは海運によつてもたらされた。海運の状態の想像をたすけるものは弘誓院所蔵の卷子がある。宝曆十二年(一七六二)のものだといふから、時代は下るけれどもその中に「横浜八景」と題した一詩がありその一景「蒔田夜雨」がそれにあたる。

「川流泊艦泊船裡」

この一節によると、蒔田の船着場は大岡川河口あたりの印象をうけるが、それがはつきり今のどの辺であったかはわからない。そのころすでに入海の扇状地には、大岡川の吐き出す土砂を基底にここ吉田新田の造成が成つていて、河口は蒔田あたりがその形をつくつていた。そして川筋も広げて、船は船着場まで入つてきた。



富士見川人道橋でおどける子供達



地元で植えた樹木を残して整備した太田橋付近



太田橋際

黄金町駅



道慶地蔵と道慶橋

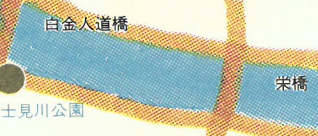


手摺とバラベツト



道慶地蔵

道慶橋



白金人道橋

富士見川公園



地下鉄東橋駅

大通り公園



富士見川公園と一体となった豊かなひろがりを見せる富士見川人道橋付近



運担する材木店と大型車の停車を考慮した段差の小さい歩道(一本橋下流・右岸)

道慶橋

いまの道慶橋の側に渡船場があつてそのほとりに僧道慶という者が住んでいた。かれは堂を建てて地蔵尊を信仰していたが、それを同所の信仰者三十余名の者に寄附して新しく堂宇を建造した。対岸の吉田新田は万治二年に完成したものであるが道慶は太田村から吉田新田に通じる小さな橋を架けた、それが今にその名をとどめる道慶橋である。

その地蔵堂をひきついでいるのが現在橋のもとにある道慶地蔵の小祠である。それに由来板がたてある。道慶といふのは回國遍歴の遊行僧であつていわゆる高野聖の一人であつたと思われるが、かれらは地方遍歴の間にいろいろ救民の事業を残した。そこで近世になつて地方村落に定着したのである。大岡川の渡船場がどの辺であつたかは不明であるが、いずれも道慶橋の近くであつて堀の内村蒔田方面に渡していたのであろう。そのような不便を見かねて道慶は架橋を志し、信仰の同志をかたがた、資金募集の托鉢をはじめたのであつたろう。



常照寺

階段を登りつめると常照寺



清水ヶ丘教会



山王橋下流の右岸

山王橋際のコブシ。うしろは婦人会館



満開の桜

南太田小学校

南太田公園



明治時代の大岡川風景(山王橋、日枝神社付近)

南太田駅

山王橋公園

市婦人会館



山王橋 吉田新田の開拓者吉田勤兵衛が新田の守護神として東京の山王神社を勧請した日枝神社にちなむ山王橋

日枝小学校



地下鉄吉野町駅



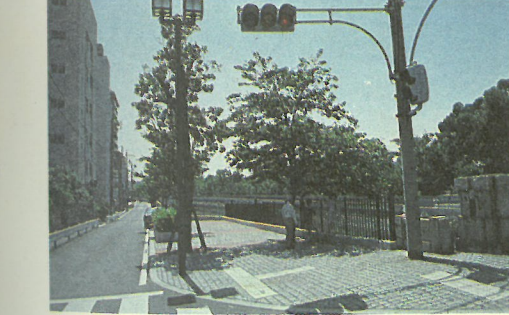
寿警察署と工事中の段谷橋



植樹樹を利用したベンチ



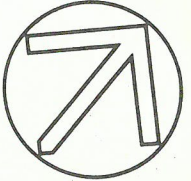
学校前の歩道の状況



清水橋際のひろがり(右岸)

OHKA RIVER PROMENADE : the first riverside promenade scheme in Yokohama. It has been designed as the strategic planning backbone to strengthen the urban design framework of the old densely populated and built-up areas, recovering and saving the misused natural resources and historical assets of the district.

Ohka River PROMENADE



河畔に栄えた産業

蒔田の田園がしだいに市街化していくにつれて、大岡川の両岸に絹スカーフ捺染業者の工場が群生した。スカーフ捺染業は輸出産業の花形として明治初期以来繁栄して市内に一〇〇数工場を数え、ほとんどが帷子川流域と蒔田地区に集中していた。これらもまた大岡川を利用した工業であった。



Y校のボート

大岡川水系の水運は開港以後、商貨運送の手段として横浜経済発展の動脈ともなつて繁栄する。しかし陸運の発達につれて漸次衰運にむかいやがて姿を消す。

船の影を見なくなった大岡川の水面上に、さわやかな水脈をひいてすべっていくボートの姿をみた。漕ぐのはY校ボート部の若者たちであった。Y校(市立横浜商業高等学校)は横浜商工業者の子弟の教育を目的として明治初期に南仲通に創立された。大岡川河口弁天橋のたもとに、神奈川との間をつなぐ渡船の発着所があったが、そのかわらわの岸に三艘のボートが吊るしてあった。Y校のボート部はそのころに発しているのである。以来東京の隅田川あたりまで遠征しボート部は名を高めた。若者たちの握るオールにはその伝統の誇りがあつた。時が移つて、Y校が現在地に転じてなおボート部は健在であつて大岡川にその姿を見せている。Y校ボート部に栄光あれ!



元気な南区の子供たち(Y校前)

Y校前船つき場での釣り風景



弘岡橋のシンボル樹「クス」

弘明寺公園

弘明寺駅

弘明寺観音

桜のトンネル(弘岡橋付近・右岸)



桜の花の下を散策する人々(弘岡橋下流・石岸)



大井橋右岸側のシンボル樹として再生したイチヨウの古木



家族づれでにぎわうプロムナード(大井橋付近・右岸)



大岡橋



大井橋



新しく植えられた桜の木(蒔田橋付近・左岸)

県公社井土ヶ谷住宅



自転車遊び(蒔田橋付近・右岸)

蒔田中学校前の広く快適な広場

視覚的広がり考えた

井土ヶ谷事件碑

宿之前公園



南税務所

南センター

南公会堂

南消防署

南区役所総合庁舎

蒔田教会

地下鉄蒔田駅

蒔田中学校の改築に伴う歩道の拡巾と広場

改修前の蒔田中



南区休日急患診療所

横濱南電報電話局

蒔田橋



市井土ヶ谷保育園



大型消防車の出入を考えた南消防署前の二段歩道

蒔田橋

この橋の修造については宝歴九年の記録があつて、以後何回も修築がくりかえされている。それほどこの橋が重視されたのは、それが金沢往還をわたしていたからである。ところが修理のたびに蒔田村には負担がかかり、それがなかなか容易でなかつた。そのことが慶応二年に代官木村童平にあてた陳情書によつてわかる。趣旨は、

蒔田橋が大破してその普請の指示があつたが、蒔田橋は土橋であつて近頃往来がひんぱんになつて「異人馬上にて道中致し」このような状態では、なまなかの修理では橋はもたない。……そこで人手のそろふ秋造工事を延期してもらいたいといふのである。



この「異人馬上にて道中」といふ件が、井土ヶ谷事件からんでくる。一八六三年九月二日、山手駐屯フランス軍の陣地を出たアンリ・カミユ中尉は、騎馬で十二社の鳥居の前をさしかつた。そこへ突然森の中からひとりの浪人態の男がとび出して馬上のカミユに斬りかつた。

小寺 篤



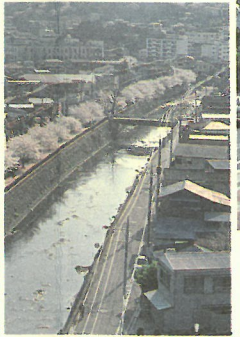
大岡橋

大井橋

鶴巻橋

井土ヶ谷橋

広く快適な歩道と水面静かな大岡川(大井橋付近・右岸)



満開になった川辺の桜並木(鶴巻橋上流)



昔からある公衆便所(鶴巻橋際・右岸)



鶴巻橋のシンボル樹「ケヤキ」

地下鉄弘明寺駅

留学生会館

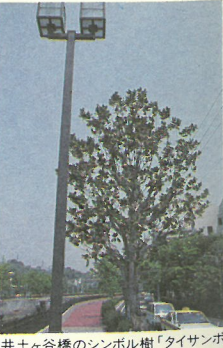
鎌倉街道一里塚碑

横浜国大附属中学校

花見橋



蒔田教会のかわいらしい塔



井土ヶ谷橋のシンボル樹「タイサンボク」